伊深まちづくり協議会だより

2022.8
NO100

●今月号の主な内容

【特集】このたよりが 100 号を迎えました ……1
たより 100 号発刊にあたって　小林会長 ……1
たよりから見る「伊深まち協」活動の歩み ……2～4
＜寄稿＞伊深まち協だより 100 号発刊に寄せて
美濃加茂市　市民協働部長　山田尚樹氏 ……3
【協議会の動き】　定例会報告 ……4

伊深まちづくり協議会ホームページ
http//ibukamachi.com
または 伊深まち協

特集　このたよりが 100 号を迎えました

この『伊深まちづくり協議会だより』は今月号で発刊 100 号を迎えました。平成 21（2009）年度に当協議会の活動が始まると同時にこの“たより”も発刊され、当初は不定期刊でしたが、同 26（2014）年度からは月刊となり、活動開始 13 年目にして 100 号の大台を迎えることができました。これを機に協議会の歩みを誌面を通して振り返るとともに、よりよい誌面づくりに向けて新たなスタートにしたいと思います。

＝＝

たより 100 号発刊にあたって

伊深まちづくり協議会　　会長　小林喜典

まちづくり協議会の活動に対して、皆さんにはご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。

今回、「伊深まちづくり協議会だより」が 100 号の発行となりました。

第 1 号の発行は平成 21 年 11 月、「住み続けたい」「住んでみたい」伊深にするためにご協力をお願いします・・と書いてありました。

初期には「秋冬の野菜作り講座」があり、地区外の方々と楽しく交流しながら活動しているようすをお伝えしました。

平成 24 年には新しい規約が決まり、同年度の会長には大矢伸司さん、25 年度には篠田洋さん、26 年度から小林となりました。伊深の名所・旧跡などを紹介する標柱づくりが 24 年度から始まりました。

毎回の紙面には、巻頭インタビュー「活き活き伊深人」があり、活躍されている方、移住されてきた方などを紹介しました。

その後、標柱の名所・旧跡を紹介するシリーズや 27 年度から始まったお月見コンサートや凧揚げ大会、29 年度から始まった「伊深ごはん研究会」の活動などをお伝えしました。一方、旧伊深村役場の改装や新交流センターの建設などに向けたワークショップが始まり、そのようすもお伝えしました。

令和の時代に入り、旧伊深村役場、新交流センター、旧櫻井邸などを活かした活動が多くなる一方、地域の助け合い活動「ちょっとたのむ輪」がスタート、遊休農地を活用したそば栽培も始まるな

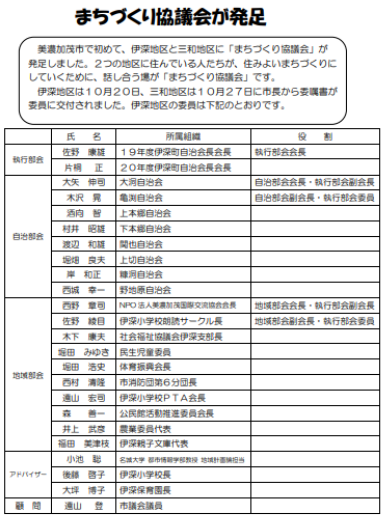
ど当協議会の活動も多面化、多様化してきました。

こうした活動を制約ある誌面でお伝えするのは難しい面があり、今の時代ネットなどが中心ですが、紙媒体の広報紙はやはり重要です。

「まちづくり協議会だより」を100号まで発刊しているのは市内で伊深だけです。

当初から関わっていただいた皆さんに感謝しながら、これからのまちづくりは、新型コロナウイルスで活動が止まっていますが、新しいやり方を考えながら当初の思いである「住み続けたい」「住んでみたい」伊深にするために、これからも皆さんのご協力と参加をお願いします。

たよりから見る「伊深まち協」活動の歩み



まちづくり協議会が発足

美濃加茂市で初めて、伊深地区と三和地区に「まちづくり協議会」が発足しました。2つの地区に住んでいる人たちが、住みよいまちづくりにしていくために、話し合う場が「まちづくり協議会」です。

伊深地区は10月20日、三和地区は10月27日に市長から委嘱書が委員に交付されました。伊深地区の委員は下記のとおりです。

	氏　名	所属組織	役　割
執行部会	佐野　康雄	１９年度伊深町自治会長会長	執行部会会長
	片桐　正	２０年度伊深町自治会長会長	
自治部会	大矢　伸司	大河自治会	自治部会会長・執行部会副会長
	木沢　晃	亀渕自治会	自治部会副会長・執行部会委員
	酒向　智	上本郷自治会	
	村井　昭雄	下本郷自治会	
	渡辺　和雄	関也自治会	
	堀畑　良夫	上切自治会	
	岸　和正	鶴洞自治会	
	西城　幸一	野地原自治会	
地域部会	西野　章司	NPO法人美濃加茂国際交流協会会長	地域部会会長・執行部会副会長
	佐野　綾目	伊深小学校朗読サークル長	地域部会副会長・執行部会委員
	木下　康夫	社会福祉協議会伊深支部長	
	堀田　みゆき	民生児童委員	
	堀田　浩史	体育振興会長	
	西村　清隆	市消防団第６分団長	
	遠山　宏司	伊深小学校ＰＴＡ会長	
	森　善一	公民館活動推進委員会長	
	井上　武彦	農業委員代表	
	福田　美津枝	伊深親子文庫代表	
アドバイザー	小池　聡	名城大学 都市情報学部教授 地域計画論担当	
	後藤　啓子	伊深小学校長	
	大坪　博子	伊深保育園長	
顧　問	遠山　登	市議会議員	

◀ **創刊号**（平成21年11月）

第4号までは市の担当職員に作成をお願いしていました。地元委員で対応するようになったのは第5号（平成24年8月）からでした。

伊深まちづくり協議会だより No.2

伊深まちづくり協議会　会長　佐野康雄

みんなで楽しく野菜づくり

伊深まちづくり協議会では、昨年の１０月から、下本郷の畑を借りて、「野菜づくり講座」を始めました。

中部台などからの若い家族が多く、野菜の作り方を学んでいます。

現在３回目です。

参加者は、１回目 12人、２回目 18人、３回目 14人、　延べ４４人です。

皆さんが、家族連れで、足しげく伊深にかよって来て、野菜づくりだけでなく、地域の方との交流も始まり、伊深をよく知ってもらう機会になりました。

空いている畑を利用して、伊深の人も、他の地域の人たちも、野菜づくりが盛んになるよう願っています。

▶ **野菜づくり講座のようす**

（第2号　平成23年12月）

伊深まち協として初めて行った対外イベント。子供たちの参加もあって楽しい活動でした。

活き活き 伊深人　地域内で活き活きと活躍されている伊深人を紹介します

第１回　**村井　昭二さん**

下本郷/昭和２年生まれ/86 歳

昭和２年のお生まれということは、戦争にも行かれたんでしょうか？　いえ。特攻隊に志願していたんですが、召集前に終戦になったため、結局はいかず、です。でも、グライダーの練習はしましたね。17歳で終戦。おかげで今こうして生きているということです。

その後、教職に就かれたんですね。そのいきさつは？　伊深小におられたＯさんが民間企業へ出られることになって欠員が生じ、どうや、と声がかかり、昭和23年からお世話になることになったんです。

その後、先生一筋ということですか？　ええ。定年までの37年間、中学校・小学校で過ごしました。ただ、当初代用教員でしたから、それではどうかということで、通信教育の大学に通い、教員免許も正式に取ったんです。通いところでは白川の奥ノ東、最後は太田小学校でした。

これまでにいろいろなボランティアに関わってこられたとお聞きしましたが？　民生委員や青少年補導委員、心配ごと相談員などのほか、下本郷のふれあいサロンも伊深で最初に取り組みましたね。

今はどんな活動をされているんですか？　保育園の「ふれあい先生」、これは孫や花壇の手入れをしています。小学校では「校外講師」ということで、竹とんぼや紙芝居をやっています。あと、親子文庫の様づくりや視聴覚の毎月の映画上映などは今でも関わっています。

そうやると、ずっと健康でこられたわけですね。いえ、そうでもなくて。35歳のときに膵の手術をしましたし、持病の腎臓結石では入退院を繰り返しましたからね。今では定期的に検査を受けて気をつけるようになりました。

今の生活サイクルはどんな風ですか？　5時から6時に起きて、朝・昼のご飯は自分でやりますね。夕飯は息子たち家族と一緒やけどね。夕方まで外で仕事をして、寝るのは9時ころやね。日記をつけていて、百姓仕事や天気のことはちゃんと書き留めています。家計簿もね。

お百姓仕事がお得意のようですが、他にお好きなことは？　絵を描くこと、ちぎり絵も。ちぎり絵の材料の和紙は五箇山和紙がいいので買いに行ったりしましたよ。紙芝居の絵もちろん自分で描きますね。

◀スケッチブックに書き溜められた習作の一部

◀ **企画記事「活き活き伊深人」の第１回**

（第9号　平成25年5月）

それぞれ活躍されてきた人たちの貴重な体験談が語られました。

▶ **「伊深の里の標柱」づくり完成**

（第15号　平成26年5月）

その後、ウォーキングや名所めぐりの目印などに活用されています。

4月20日、「伊深の里の標柱づくり」が完成しました

平成23年度から活動がスタートしたものの、一時中断していた同活動が本格的に再開し、３月９日、４月20日の２回の設置作業で予定していた全32か所への設置を完了しました。この活動は、当まちづくり活動に先立つ「伊深の景観づくり」の中から発案され、その後間伐材の利用などの要素を含んだ活動に発展してきたもので、村の運び出し、製材・乾燥、研磨、塗装、穴あけ、金具取り付け、字書きまでのハード作業を断続的に進めてきた一方、設置かしょの洗い出し、管理者の把握、地権者・管理者との協議といったソフト面の調整に予想以上に時間を要し、結局３年越しの活動となってしまいました。

この間、県森林文化アカデミーの先生から技術面でのアドバイスをいただいたり、高度な作業は専門家に委託するなどしましたが、全体としてかなりオリジナルな標柱になったのではないかと思います。

活動グループでは「せっかく設置した場所のいわれなどを広く知ってもらうため、標柱をめぐる『まち歩き』や案内用のリーフレット作成も行いたい」（福田代表）としており、早急に計画を具体化することにしています。ここまでの活動にあたり、多くの方のご協力をいただきましたこと、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

伊深の名所・旧跡紹介シリーズ

第1回　岩山の絶景・幻の滝　（牛牧）

伊深の外から訪れる人で、この風景が好き、という人が多いのが、高木山うらの岩山の景色です。ほぼ直角に近い角度でそそり立つ絶壁が数百mにわたって続く景色は山水画にも例えられるほど貴重なものです。そして年に数えるほど、大雨のあとだけに見られるのが『幻の滝』です。高木山側に５～６本、牛牧側に３本見られるそうです。

位置（牛牧）

標柱：あり

◀「幻の滝」のひとつ。

◀ **企画記事「伊深の名所・旧跡紹介シリーズ」の第１回**

（第17号　平成26年7月）

その後第33回まで続きました。

特集　月と琵琶とだんご汁　－伊深まち協お月見会を初めて開催

月はなくても「伝統」の三重奏に酔いしれる

当協議会と市文化の森が共催し、９月26日（土）に初めて開いた文化イベント「伊深まち協お月見会」は市内外から多数の参加者があり、盛況のうちに終了しました。

この催しは、当地に伝わる伝統のしきたりと地元の産物をいただく「季節行事」の価値を見つめ直すことで、ささやかな「気持ちのゆとり」を取り戻す機会にしてもらおうと企画したもので、少しぜいたくな時間として、『琵琶（びわ）』の本格的な演奏も加えて開催しました。

あいにくの天気で月をめでることはできませんでしたが、「飾りつけ」「郷土食」「伝統音楽」の“伝統”の三重奏で少しリッチな秋のタベとなったのではないでしょうか。

プログラム１
十五夜にまつわる話

最初に文化の森の藤村学芸員が伊深の主婦３人にインタビューする形で、それぞれの家の十五夜の飾り方を紹介してもらい、併せて、それを伝えてきた思いなどを語っていただきました。

中には「生家では全くそんなことはやっていなかったが伊深の家では今でも毎月こうした季節行事を欠かさずにやっている。別に装幀でもなく日常生活の一部になっている」とお話される方もありました。

左　下本郷の村井さん
中　下本郷の森さん
右　上切の河村さん
（飾りつけも）

▶ **「伊深のお月見会」第１回**（第31号　平成27年10月）

今では秋の恒例行事となりつつある「お月見会」。初回のコンサートは琵琶（びわ）演奏でした。

美濃加茂市
市民協働部長
山田　尚樹氏

〔寄稿〕　伊深まち協だより 100 号発刊に寄せて

以前に、伊深交流センターで行われた澁澤寿一さんの講演で、澁澤さんが、「稼ぎ」と「勤め」について、お話されていたことを思い出しました。

お金のためにする労働が「稼ぎ」で、自分たちや人のためにする労働が「勤め」と、私は、解釈し記憶しています。

「勤め」とは、果たさなければならないことであり、地域では、子どもたちが、かっこいい大人たちの「勤め」を見て感じて育ち、そして、次世代に脈々と受け継がれてきたのではないでしょうか。

お祭りや環境整備など、こういったことも、地域のための活動であり、こうやって、地域がつくられ守られてきたと思います。

しかし、近年、受け継がれてきたことの大切さが見失われている風潮があります。

こういった視点で考えますと、まさに、伊深まちづくり協議会は、持続可能な地域といった大きな課題の解決に向けて活動され、私たちは、見習いたいと思いますし、感謝の念に堪えません。

以前につくられた「伊深まちづくり構想」にあるまちづくりビジョンには、

> い（伊）いまちは、深い。
> 　～中略～
> ないものねだりではなく、あるものを守り、育て、深めたり、新しいものを生み、組み合わせていくこと。
> 一見「遠回り」に見えるかも知れないけれど、そんな伊深ライフを「笑顔」で楽しめたなら、このまちは、もっとあなたの「ふるさと」になる。

とあります。

読み返して、また、感動しました。

ありがとうございます。

外遊びプロジェクト第１弾　「親子で凧つくり＆凧あげ」
特集 親子で夢中に。ぜんざいの味も格別

伊深の自然を生かし、思いきり外で遊ぼう――と初めて企画した「外遊びプロジェクト」の第１弾「親子で凧つくり＆凧あげ」を１月30日（土）に行い、市内外から20人以上の参加がありました。今回作ったのは和凧の改良型で、最初に好きな絵を描いたあと、講師役の委員から説明を受けながら、竹ヒゴや糸、足をテープやのりで組み立てていきました。その後、伊深交流センター南の田んぼに入り、さっそく凧あげに挑戦しましたが、当日はあいにく風がほとんど吹かず、あげるのに苦労する姿が見られました。それでも中には高くあげ続ける人もあり、「凧あげにはコツがある」ということを知る機会ともなったようです。その後、「ぜんざい」のふるまいがあり、何杯もお替りをする子どもたちの姿が見られました。

実施後のアンケートでは全員が「大いに楽しめた」と好評であったことから、当協議会では第２弾以降の「外遊び」計画を具体化していく予定です。

◀　**「凧あげ大会」第１回**（第 36 号　平成 28 年 3 月）

こちらも冬の恒例行事となりつつある「凧あげ大会」。“電柱のない田んぼで思いっきり凧あげを楽しもう”がキャッチフレーズ。最後の「ぜんざい」もお楽しみです。

伊深ごはん研究会グループ /
6.6（火）、ワークショップのふるまい御膳を提供 － 朴葉すしなど

今年度から活動を開始した「伊深ごはん研究会」は 6.6 に開かれた旧役場活用に関するワークショップで、今年度最初の《ふるまい御膳》を提供しました。6 月ということで今回は塩ますを使った『朴葉すし』をメインに、大根の煮物、フキの炒め煮、そら豆、玉ねぎの梅あえ、えんどう豆の炒め物、すまし汁などを作りました。いずれも素朴な味付けの御膳でしたが、東京からこられた古谷先生を始め参加者には好評で、ひととおり味を確かめては材料を確認するなど「食」を通した交流が進んだようです。

▲　**「伊深ごはん研究会の活動」第１回**
（第 48 号　平成 29 年 7 月）

新交流センター完成前から始まり、完成後、より活発化しています。

特集 「旧役場庁舎」がリニューアルオープン
5.25（金）～27（金）に記念イベント

6 月 1 日に正式オープンの運びとなった「旧伊深村役場庁舎／茶霞おきゃれ」のオープン記念イベントが 5.25（金）から 5.27（日）の 3 日間にわたって行われ、旧庁舎周辺は関心をもつ地区内外の人たちでにぎわいました。

5.25（金）には伊藤市長をはじめ、小川県議会議員、村瀬市議会副議長、日比野教育長、羽場正眼短大厚生部長ら来賓多数を迎えて記念式典が行われ、地元からは小林まち協会長、堀田自治会長会長らが出席しました。

今回のイベントは新聞各紙にも紹介され、オープンを待ちわびていた地元住民だけでなく、「新聞をみてきた」という地区外の方も多く訪れていました。

5.26（金）・27（日）には初の試みとしてマルシェ「おきゃれ市」が行われ、手作り工芸品などを扱うフリーマーケットや地元伊深産の農産物・特産品を扱う軽トラ市に立ち寄る姿が見られました。

※6 月 1 日発行の「伊深連絡所だより」にも関連記事がありますので合わせてごらんください。

▲新たに案内看板も設置された旧役場

▲正眼寺の山川老師の揮毫による銘板を掲げる伊藤・美濃加茂市長と羽場・正眼短大厚生部長

▶絵本「えげんさん」増刷販売キャンペーンでは、絵本をスライドで紹介。「思わず涙がでてしまった」という人もいました。

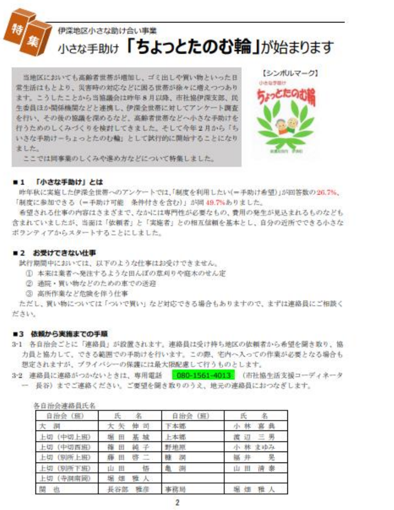
▼初の試み『おきゃれ市』では手作り作品を扱うフリマや伊深の野菜・特産物を販売する軽トラ市が行われました。

▼今回のイベントには、改修に関わった早稲田大学古谷研究室の学生さんたちも協力。庁舎をめぐるオリエンテーリングで来訪者を楽しませていました。

1

▲　**旧伊深村役場がリニューアルオープン**
（第 58 号　平成 30 年 6 月）

国の登録有形文化財の指定を受け、旧役場庁舎がよみがえりました。



伊深地区小さな助け合い事業
特集 小さな手助け「ちょっとたのむ輪」が始まります

当地区においても高齢者世帯が増加し、ゴミ出しや買い物といった日常生活はもとより、災害時の対応などに困る世帯が徐々に増えつつあります。こうしたことから当協議会は昨年 8 月以降、市社協伊深支部、民生委員ほか関係機関などと連携し、伊深全世帯に対してアンケート調査を行い、その後の協議を深めるなど、高齢者世帯などへ小さな手助けを行うためのしくみづくりを検討してきました。そして今年 2 月から「ちいさな手助け－ちょっとたのむ輪」として試行的に開始することになりました。

ここでは同事業のしくみや進め方などについて特集しました。

【シンボルマーク】
小さな手助け ちょっとたのむ輪

■1　「小さな手助け」とは

昨年秋に実施した伊深全世帯へのアンケートでは、「制度を利用したい（＝手助け希望）」が回答数の 26.7%、「制度に参加できる（＝手助け可能　条件付きを含む）」が同 49.7%ありました。

希望される仕事の内容はさまざまで、なかには専門性が必要なもの、費用の発生が見込まれるものなども含まれていましたが、当面は「依頼者」と「実施者」との相互信頼を基本とし、自分の近所でできる小さなボランティアからスタートすることにしました。

■2　お受けできない仕事

試行期間中においては、以下のような仕事はお受けできません。

① 本来は業者へ発注するような田んぼの草刈りや庭木のせん定
② 通院・買い物などのための車での送迎
③ 高所作業など危険を伴う仕事

ただし、買い物については「ついで買い」など対応できる場合もありますので、まずは連絡員にご相談ください。

■3　依頼から実施までの手順

3-1　各自治会ごとに「連絡員」が設置されます。連絡員は受け持ち地区の依頼者から希望を聞き取り、協力員と協力して、できる範囲での手助けを行います。この際、宅内へ入っての作業が必要となる場合も想定されますが、プライバシーの保護には最大限配慮して行うものとします。

3-2　連絡員に連絡がつかないときは、専用電話 080-1561-4013 （市社協生活支援コーディネーター　長谷）までご連絡ください。ご要望を聞き取りのうえ、地元の連絡員におつなぎします。

各自治会連絡員氏名

自治会（班）	氏　名	自治会（班）	氏　名
大洞	大矢　伸司	下本郷	小林　喜典
上切（中切上班）	堀田　基城	上本郷	渡辺　三男
上切（中切西班）	篠田　純子	野地原	小林　まゆみ
上切（別所上班）	藤田　啓二	棟洞	福井　晃
上切（別所下班）	山田　悟	亀洞	山田　清泰
上切（寺洞南岡）	堀畑　雅人		
関也	長谷部　雅彦	事務局	堀畑　雅人

2

▲　**小さな手助け「ちょっとたのむ輪」が始まります**（第 66 号　平成 31 年 2 月）

「人にやさしいまち＝伊深」を実現するささやかな活動です。

◀ 新交流センター外観
（第 83 号　令和 3 年 1 月）

伊深町民待望の新交流センター完成を間近にA3 見開きで外観を紹介しました。
旧伊深村役場、新交流センターの完成で伊深中心部の風景が一変し新たな歴史が始まりました。

▲ 学童クッキング
（第 90 号　令和 3 年 9 月）

新交流センター活用の具体的成果の一例として紹介しました。

▲ 旧櫻井邸で「伊深御膳」のふるまい
（第 98 号　令和 4 年 6 月）

昭和初期に使われていたお膳を使って伊深の郷土料理を提供しました。

▲ 伊深ほたるコンサート
（第 99 号　令和 4 年 7 月）

新交流センターでは初の演奏会となり、寄贈された音響設備のお披露目公演ともなりました。

協議会の動き

7 月定例会（7.20（水））のあらまし

●協議：

1．そば打ち道場（講習会）開催について　開催時期について、11 月中とし、（昼 5 名＋夜 5 名）×1 回/週×3 週　で開催することにした。

2．ごはん研究会関係　夏休み中の「学童クッキング」は 57 人に対応、「伊深食堂」は 9 月末～10 月に実施の予定とすることを了承した。

3．旧ゲートボール場横の栴檀（せんだん）伐採について　伐採時期は冬とし、材を木工用に利用できないか検討することとした。

4．お月見コンサートについて　新型コロナの情勢は別途検討とし、10.8（土）に実施する方向で細部を詰めることとした。

●報告：

1．春そば栽培状況について　お盆明けころに収穫予定。

2．JA 倉庫内の棚設置について　他の団体と共同で設置し応分の負担を行う。

3．その他　当面の行事等について確認。

生活の中で、何かお困りごとはありませんか？

ごみだしなど、ちょっとしたことならお手伝いさせていただきます。遠慮なく、各地区の「(ちょっとたのむ輪)連絡員」または下記にご相談ください。
080-1561-4013

伊深町
小さな手助け
ちょっとたのむ輪

伊深まちづくり協議会だより　　第 100 号
2022. 8. 1発行（毎月 1 回 1 日発行）
発行責任者　伊深まちづくり協議会　会長　小林　喜典
事務局　美濃加茂市伊深町927－1
伊深交流センター内
電話　0574-29-1395　FAX　0574-29-0001
※ ご意見･お問い合わせもこちらまで